

# 鵜坂の歴史



(第一輯)  
1997.2

鵜坂地区観光協会刊



大伴家持、売比河鵜飼の図  
(鵜坂神社所蔵)

## 昔の鵜飼

鵜飼の歴史は、大変古いものです。神武天皇紀にもうがいべ鵜養部の名がでてきます。大宝令には、大膳職の下役に鵜飼があります。もともと漁民たちが考えだした漁獲法なのですが、風変わりな面白い方法なので、都から下った国司達が、田舎の生活のつれづれを慰めるよい遊びとして、よく試みたようです。

鮎の季節は春の終わりから夏の終わりまで続くのですが、鵜飼の歌は3月・4月の間に

詠まれていますから、主として初夏の遊びだったようです。

天平勝宝2年3月の「鵜を潜くる歌」というのを、大伴家持が詠んでいます。

それは、

あらたま としゆき かわり 春されば 花咲き 匂ふ 足引の 山下とよみ 落ちたぎち 流る 辟田の 河の瀬に

あゆ 年魚 児さ走る しま とり うかいとも かがり 簞さし なづさひ 行けば わがもこ 吾妹子が 形見がてらと

紅の八しほに染めて おこせたる衣のすそも とおりと濡れぬ

と、「辟田川」での歌になってきます。現在この「辟田」というのは、国泰寺のある「西田」ということになっていますが、鵜飼のできる川とすれば、相当な川幅と水量があったと考えられるのですが、現在の「西田」には、これにあてはまるような川が見あたりません。

婦中町を流れる井田川は、かつては「咲田川」と呼んでいたという史実があります。これと関係があるのか、どうかわかりませんが、大伴家持のもう一つの歌

めひ 売比河(婦負河)へ早き瀬ごとに かがり 簞さし、 や そとも 八十伴の男は 鵜河立ちけり

は明らかに、鵜坂の辺りで詠んだもので、売比河も鵜坂河、或は神通川であろうことは定説となっています。

なお家持はこの後も、大の仲良しであった越前判官、大伴池主に良い鵜を贈って、鵜飼の遊びを奨めています。

越中といっても特に能白海岸は鵜の産地でしたので、鵜飼も盛んだったようです。今でも能登一宮の気多神社には「鵜祭」が残っています。その頃の鵜飼というのは、鵜坂神社の掲額にあるような、徒ち渡りと称する、漁氏が徒歩で2・3羽の鵜を操りながら、捕る方法だったようです。



## 鵜坂村

### 位置

婦中町の東部を占める。神通川の中流左岸に位置し、対岸は富山市新保地区である。国道359号線を経て神通川の有沢橋並びに婦中大橋を経て、富山市に隣接する。北は富山市神明地区及び婦中町朝日地区に、西は同朝日安田地区と同速星地区に、南は同熊野地区と境する。

### 地勢と土質

東に神通川（流れは往古より変遷を繰り返しているが）、西に井田川 南に御門（みかど）川と三方が川に囲まれていたので古来三川島（みかわしま）と呼ばれていたところである。神通川扇状地の中央部でもあるから、平坦な洪積層砂質壤土に被われた肥沃なところである。

しかし神通川流域の度重なる変遷で、この辺り一帯は砂礫の川原であった時期がかなり多かったと

思われる。今でも田面2～30センチぐらい取り除くと砂礫ばかりで田を鋤くにも困難なところかなり多かった。昭和初期(6年)の資料によると村の総面積は503haのうち田448ha畑448haとなっているが最近では農地の宅地化が急速に進み田畑が激減しているのが現状でもある。



## 沿革の概要

### 地名のおこり

当地の現神通川が鵜坂川といったことから、鵜の生息地であったか、或いは鵜飼いが行われていたからか、何れかに起因すると考えられている。近代(明治時代)でも神通川には野放しの「鵜」が沢山いたことで、これに追われた鮎が川原に跳ね上がったものだという古老の話もある。

奈良朝、天平時の国守大伴家持が管内巡察の途次、詠んだ「めひ川(神通川)」での「鵜飼い」の歌からも、「鵜飼い」が行われていたことが明らかである。

### 鵜坂神社

婦負郡発祥の地として、この辺りでは最も早く開拓の祖をまつる宮として、確かな年代は不明ながら存在していたらしい。それが第10代崇神天皇の代、北陸將軍大彦命(おおひこのみこと)の勸請にかかり白雉年間(650～654)堂宇を再建したという。その折、神代第6代面足尊(おもだるのみこと)惶根尊(かしこねのみこと)を主神として、上記鵜坂姉比咩(ねひめ)の神、妻比咩(めひめ)の神および大彦命を相殿に祭るようになった。

それいらい、朝野の崇敬厚く、平安朝には、白河天皇、堀川天皇の病が重く、鵜坂神社にお祓いをさせたという史実や勅使が遣わされたという記録がある。また、称徳天皇(765～769)の御代に僧行基が勅を奉じて24院7堂伽藍を建てた。これが鵜坂山鵜坂寺(とうはんじ)である。しかしその後、数次の兵火、水害にあって衰微し、明治3年には廃仏棄釈の憂き目にあい、75世の勸実大和尚をもって廃絶したのである。

### 大伴家持

越中の国司大伴家持が天平20年(748)国府を出て射水川を経て、音川線、或は水戸田線を巡



り、婦負の野（めひのの）入り、鵜坂神社に詣でて、郡衛（ぐんが）の一夜の慰めに、鵜飼いを賞でた。

明けて神通川を渡り、早月辺りまで、巡察したといわれている。

その折詠んだのが

鵜坂川渡る瀬 おほみ このあが馬のあがきの水に きぬぬれにけり

売比河（めひかわ）のはやき瀬ごとに篝<sup>かがり</sup>さし 八十伴男（やそとものお）は鵜川立ちけり

と、この地はわが国鵜飼の最古のものの一つで、神通川に火炎光々景観を呈していたことであろうと思われる。爾後年をおって漁具漁法が改良されて、鵜飼そのものは次第に消滅していったようである。

しかし漁業は依然盛んに行われ、ます・さけ・あゆが地方の特産品として早くから都人士にも称揚されたようである。平安時代の諸国の産業状態を現している延喜式主計の部に越中の産物として鮭鮠、鮭ひお、鮭背腸（さけせわた）など“さけ”の各製品が挙げられ注目されていたことを示している。

延喜式内社としてというよりも“越の大社”としての鵜坂神社の伝承などからしても、この辺りは、太古からかなり開かれたところであったことを伺わせるのである。

## 中世になって

中世に入ると荘園制が発達、各地に寺社領や貴族の荘園が作られるようになってきた。当地に関係が深いのは鵜坂御厨（うさかみくりや）と宮川荘（みやかわしょう）である。延文5年（1360）越中における伊勢神宮の御厨として鵜坂が記載されている。御厨というのは、天皇家や伊勢神宮などへ供物や食料として魚介類その他を貢進する所領のことである。当初は魚介類を供物として貢進する人々の居住地域をさしていたのであるが、次第に荘園化して、人々は供御人とされたようである。しかしその範囲はどの程度であったのか明確でない。

宮川荘この辺りでは最大規模の荘園であったようである。南北朝期から戦国期にかけては徳大寺家の所領となっていたのが、一時守護の手になり、嘉吉3年（1442）再び徳大寺家のものとなっている。その後も、何度もその所領が変わっているところである。

## 近世になって

寛永16年（1639）前田利次（まえだとしつぐ）が10万石を領して富山藩主となるやいご明治元年（1868）まで、いわゆる富山藩領だったわけである。この頃の鵜坂地区は婦負郡宮川郷と新川郡太田荘に属していた。

宮川郷には鵜坂村・分田村・田島村・上田島村・宮ヶ島村・島黒瀬村

太田荘には上轡田村・下轡田村・羽根新村・東本郷村・西本郷村・西塚原村・下板倉村・野替村・和田村・上轡田新村・和田新村

がそれぞれ属していた。

この頃の各村の生活状態などはあまり明らかでないが、農民の階級分離もかなり進んでいる村がおおかったようである。一つの村といっても平均して20軒程度の小集落であった。富山藩が新田開発奨励策をとったこともあって、新しい枝村ができていった時期でもある。

## 明治になって

明治5年6月 始めて戸籍編制のための区制が敷かれた際、婦負郡宮川郷に属していた鵜坂村ほか5ヶ村は第12大区3小区に新川郡太田荘に属していた上轡田村ほか12ヶ村（この時増田村なども含まれていた）は第8大区5小区となった。

更に明治9年には新川県から石川県と改称されて、その年の11月再び区画改正が行われて、前者（婦負郡部）は第3大区小5区となり、後者（新川郡部）は第2大区小10区となった。

明治16年石川県から始めて富山県として分離独立した。その翌年から戸長役場制度が敷かれるようになり、またまた行政区がかわり、前者(婦負郡部)の役場が中名村に置かれるようになり、所属は中名村ほか37ヶ村に編入された。後者の役場は新川郡秋が島村に置かれ、秋が島村ほか37ヶ村に編入になった。

## 鵜坂村成立

明治22年いよいよ市町村制が施行されるようになると、様々な紛議が出たようである。

最も問題になったのは、従来の婦負郡に属していた側と、新川郡に属していた側がそれぞれ分離して一村を構成してはどうか?という意見であった。しかし当時の村の構成規模や地勢・水利の点から、或いは旧来の風俗習慣、地区住民の意向、交流、小学校などあらゆる面を考慮して両者が合併して一村を形成することになったのである。しかし増田村は水利などの関係から速星村に合併となった。

こうしてできた新しい『鵜坂村』の村名は勿論鵜坂神社に起因するのであるが、ここで各村にある神社の統合問題も浮上してきた。また轡田と分田にあった小学校の統合も行われた。

なお、この時の村全体の戸数は258戸、人口は1,544人となっている。

## 大正になって

大正3年 未曾有の大水害を被ったりしたが、新しい村づくりが着々と進められた。

大正10年従来の大字・小字名を廃止して新しく区制とした。

- 1区 上轡田 下轡田 下板倉
- 2区 塚原 分田 鵜坂
- 3区 羽根新 田島 上田島
- 4区 東本郷 西本郷 宮ヶ島

## 昭和になって

昭和15年すなわち皇紀2600年の記念行事として進められた市町村の合併の気運が当地にも及んできた。当初の鵜坂村と隣接する速星・神明・熊野村の4ヶ村で一村を形成しようとする気運が出て何回か協議を重ねてきたが、結局まとまらず、とりあえず鵜坂村と速星村だけで合併が決まったわけである。当時婦負郡の中心にあったので、『婦中町』と命名、昭和17年6月1日をもって発足した。

この頃の戸数や人口を比較してみると、鵜坂村は266戸 1,670人に対して速星村は630戸 2,868人と極めてアンバランスな状態に見えるが、行財政面では全く対等な合併を行った。

その後太平洋戦争などの影響があって合併が一時停止していたが、戦後の昭和30年・昭和34年の2度にわたって大合併を繰り返し最終的には、旧婦中町に朝日・熊野・宮川の各村、更に神保・古里・音川が合併。

## 現在

昭和17年鵜坂村の呼称は消滅してしまっているものの、行政面では、鵜坂地区 鵜坂小学校校下として取り扱われ旧来の村根性といわれるくらい根強く、深く硬い繋がりを持って、今日まで生かされている。

婦中町の著しい発展の中であって、この地区は特異な変貌をみせているといえる。その一つは昭和40年頃からの極端な戸数の増加である。同時に進行した農地の宅地化の現象である。また企業や公共施設の誘致、交通網の整備、商工業の発達 等々今までの農村地帯の景観が失われ急速に都市化の様相をみせていることである。

これは交通網の急速な整備と相俟って、自家用車の急激な増加によって、富山市への通勤圏としての性格がつよまり、加えて農地のカドミウム汚染田の復元事業の長期化によっておこった農業離れ、

必然的に農地の宅地化に拍車をかける結果を生むという循環作用といえよう。

要するに富山市のベットタウン化の様相が極端にこの地域に集中して出現しつつあるといえよう。



鵜坂地区各集落別 変革の概要  
 (読まれる前に以下のことを )  
**主な用語の解説**

みくりや御厨	天皇家および伊勢神宮などに供膳・供祭の魚介類を進納する団体の居住地 鵜坂御厨
ぐん・こおり郡	国の下にあって、郷(ごう)里(り・さと)町・村などを包括した行政区画 大化5年から施工 婦負郡
しょうえん荘園	8世紀から16世紀にわたる古代・中世社会の基本的な土地所有制度の名称 宮川荘
ほう保	中性に通じて存在した所領単位 庄 郷 保 名(みょう)と併称 太田保
くさだか草高	村ごとの米の収穫量 石高 越中では普通田1反について1石5斗と計算していた 米100表(50石)といえは約3町3反をいう
ふるだか古高	新田高(しんでんだか)に対する言葉 村に以前から固定的にある田地の収穫量
めん・めんあい免・免相	石高に応じて賦課した税率 1ツは1割をさす 3ツ6歩3厘といえは36.3%の税率である
じょうめん定免	年によって年貢の取り立ての率を変えないこと
へいきんめん平均免	一つの村内で、税率の高低をなくして公平な税率を定めること
こものなり小物成	田畑以外に課せられた雑税の総称 これは原則として銀でおさめ、村単位で納めさせた
かわやく川役	川でとれる魚(鮎・鮭・鱒など)に課した税
てあげめん手上げ免	農民が自発的に願い出て定めた増税率 藩の改作法によって米が増収になった御礼というかたちをとった
きりだか切高	農民が自分の持田をほかへ売り渡すこと 買うことを「取り高」といった年貢が納められないためが多かった
あたまふり頭振	水呑百姓 自分の土地を持たないで、村の自治にも参加できない階層の百姓
たかもち高持百姓	ごく僅かでも自分の土地を持っているもの
きもいり肝煎	村の最高責任者 村内のすべてのことをとりしきる
とむら十村	加賀・富山藩独特の役職 富山藩では250ほどの村を5つの組に分けて組ごとに有力農民を任命して支配させた
ながひき永引	水害などで収穫が減じた場合の免税措置

## 下轡田

神通川中流左岸と井田川中流右岸の間に位置し、すぐ西側を神通川の分流御門川を挟んで御門(みかど)、南は上轡田に接する。享保年間(1716～1735)にくつわだ村が上(かみ)と下(しも)に分離して成立した。

## 近世

新川郡に属し、万治3年(1660)以降富山藩領。慶長9年(1604)10月前田利長がくつわ田村など4村の野の内に新村を立てる許可を与えている。享保年間の古高は182石余 免3ツ5歩 新田高91石余 平均免1ツ 小物成は銀納林373歩 代銀3匁余 舟2艘役10匁 鮭川役77匁余 鱒川役1匁 梁役3匁 神通川に直ぐ隣接するため享保12年から明和6年までの間に、7回にわたって、水損によると思われる永引が計184石余ある。文政8年(1825)には奥田組に属した。慶応4年(1868)には宮川組に属し、家数37(うち頭振22)人数152(うち頭振73)である。

集落中央に誉田別命(ほんだわけのみこと)を祭神とする八幡神社がある。祭礼は4月14日 11月14日である。

またすぐ横に浄土真宗西派 紫雲山浄福寺がある。この寺は大村城々主 轡田豊後守雅正の長子祐専(ゆうせん)が永禄11年(1568)開いたものと伝えている。開基以来無地子(無税)の特権を有していた。またこの寺の鐘は轡田氏が武士であった頃 戦場で使った陣鐘(じんしょう)であるという。

室町時代の作と推定される。明治22年新たに「鷓坂村」ができて、その大字一区となった。

## 近代

婦中町の東部にあたる。旧国道359号線の南側地区 国道沿いのバス停下轡田から南へ500メートルほど入った所に浄福寺および八幡神社がある。それを中心に大集落ができています。住宅は国道沿いにもかなり建ち並んでいるが、国道と集落の中間点に自由ヶ丘団地ができています。

集落南側にはまだ水田地帯が残ってはいるが宅地化が急速に進んでいるのが現状である。今でも鷓坂地区最大規模の集落になってきている。一区にはロイヤルゴルフセンターがある。

世帯数と人口の推移

昭和26年	68軒	379人
昭和52年	216軒	883人
平成7年	382軒	1341人
平成13年	軒	人

## 上轡田

神通川中流左岸と井田川中流右岸の間に位置し、直ぐ西側を神通川の分流御門川が流れる。

北は下轡田、南西は御門川を挟んで増田。村名の由来は当地で勢力のあった郷土轡田左衛門尉の名あり、享保年間(1716～36)人口増加のため上(かみ)・下(しも)2村に分立した。

## 近世

新川郡太田保に属し、万治3年(1660)以降富山藩領。正保郷帳、明暦2年(1656)の村御印留



でも轡田村一村、享保6年(1721)上轡田村の高287石余。寛正2年(1790)の古高123石・定免3ツ5歩8厘 新田高137石余・平均免9歩6厘余、銀納畑1,129歩・代銀16匁9歩3厘があり、小物成は柳差役14匁4歩・舟役10匁・鮎川役5匁5分・築役3匁・鱒川役1匁・鮭川役79匁5分となっている。

なお水害によると考えられる永引が寛文7年(1667)から寛延2年(1749)まで10回にわたって計218石余ある。文政8年(1825)には奥田組に属した。幕末には古高135石余・免3ツ6歩 畑作古高232石余・免2ツ6歩 小物成として柳差役17匁4歩・銀納茶6匁1分7厘 鮎川役5匁5分 鮭川役79匁5分 鱒川役・築役は寛正2年と同じ。

慶応4年(1868)は宮川組に属し家数30(うち頭振8)人数135(うち頭振25)である。

誉田別命(ほんだわけのみこと)を祭神とする八幡神社があった。大正9年鵜坂神社に合祀された。

## 上轡田新

上轡田村の枝村である。享保6年(1721)の高22石 寛政2年(1790)の新田高16石余・平均免1ツ8厘 小物成銀5部8厘。 幕末には古高22石余・免1ツ2歩。慶応4年(1868)宮川組に属し、家数3(すべて高持)人数15人。誉田別命を祭神とする八幡神社があった。

## 和田

轡田の枝村 上轡田の南西に位置し、クツワダの下2字をとって村名(和田)とした。

享保6年の高21石余 寛政2年(1790)の古高14石 定免4ツ 新田高17石余 平均免1ツ1歩 小物成は川役4匁・柳差役2匁となっている。

慶応4年(1868)は宮川組に属し家数1(高持)人数8

天照大神(あまてらすおおみかみ)豊受皇大神・天児屋根尊(あめのこやねのみこと)を祭神とする神明社があった。

## 和田新

上轡田村の枝村だが、和田村に近かったので、かく命名された。享保6年の高51石 寛政2年(1790)の新田高73石余 平均免1ツ9厘余、小物成は柳差役7匁5分3厘となっている。

永引が元文3年から宝暦11年までに4階にわたって、計15石6斗余ある。慶応4年(1868)は宮川組に属し、家数10(うち頭振4)人数42(うち頭振13)である。

天照大神を祭神とする神明社があった。

## 野替

上轡田村の枝村で、もと野飼といって、川中の小島で牛馬を飼育していた。いつころか野替と改称された。享保6年の高20石余 寛政2年の古高1石 新田高57石 平均免1ツ4分 小物成銀2匁となっている。

慶応4年(1868)は宮川組に属し、家数1(高持)人数9

天照大神を祭神とする神明社があった。

## 近代

明治22年新たに「鵜坂村」が成立するまで、上記のように上轡田・上轡田新・野替・和田・和田新の5集落があったが、昭和17年あらたに「婦中町」になった際、正式に一括大字上轡田となった。

旧国道359号線沿いの下轡田の南側に続く、南北に細長い集落である。神通川西岸沿いである。西端にウエスタンゴルフがある。また集落東側のカドミウム汚染田を県が買収、富山県緑化センターを設立平成8年この緑化センターを拠点に大拡張して、日本海側随一といわれる「富山県中央植物園」がオープンした。

#### 世帯数と人口の推移

昭和26年	50軒	294人
昭和52年	70軒	331人
平成7年	87軒	367人

## 分田

神通川中流左岸に位置する。東に鷓坂 西に田島が境する。かつては田島村の枝村であった。正保郷帳(1644～1648)では田島村に含まれている。

## 近世

元禄郷帳(1688～1704)では高240石余 享保6年(1721)の高340石 寛正2年(1790)の古高128石 定免3ツ2歩 新田高30石余 平均免9歩7厘 小物成は鮎川役14匁 鱒川役2匁5歩 柳差役11匁4歩 なお水害によると考えられる永引が享保5年から昭和3年まで5回にわたって計212石ある。文政8年には奥田組に属した。幕末には古高156石 免3ツ6歩 畑作古高56石 免2ツ 小物成は鮎川役2匁5歩 柳差役2匁 鮎川役2匁

慶応4年の家数16(うち頭振2)人数86(頭振4)である。

天照大神・豊受皇大神を祭神とする神明社があった。

## 近代

婦中町の北東部に位置する。旧国道359号線が東西に走る。この地区の中央を町道が南北に走り、住宅は旧国道と町道に沿って続き 住宅地の東部・西部は水田地帯だったが西武に鷓坂団地・緑台団地などの住宅団地が次々造成されている。

#### 世帯数と人口の推移

明治17年	15件	60人
昭和26年	29軒	148人
昭和52年	52軒	209人
平成7年	289軒	1001人
平成12年	353軒	1193人

## 鷓坂

神通川中流左岸に隣接し、西は分田 北は有沢(現富山市)で、有沢の船渡しで富山町に通じていた。村名は鵜坂神社に由来し、字義から伺えるように、かつては台地で、比較的水害からは免れていたと考えられる。中世は鵜坂御厨(うさかみくりや)として推移した。

### 近世

慶長9年(1604)当村・轡田村・塚原村・羽根村(現富山市)の野の新開が許可されている。

(越中古文書)正保郷帳では高181石余 田方9町1反 畑方3町余 新田高43石余 享保6年(1721)の高182石余 寛政2年(1790)の古高150石余 定免4ツ4歩 新田高29石余 平均免9歩9厘余 小物成は柳差役8匁32分 鮎川役7匁 鱒川役1匁8分6厘 鮭川役8匁7分5厘 川原役2匁4分6厘 新柳差役2匁となっている。神通川の水損と考えられる永引が寛文2年(1662)から明和4年(1767)まで10回にわたって計73石余ある。

文政8年(1825)には奥田組に属した。小物成はすべて寛政2年とおなじ。慶応4年宮川組に属し、家数7(頭振2) 人数45(うち頭振18)である。

鵜坂新村 鵜坂村の枝村 元禄郷帳では高60石 寛政2年(1790)の古高23石余 定免4ツ3歩 新田高12石余 平均免6歩2厘余 永引も4回にわたって行われている。が、慶応4年には村名はみえないので鵜坂村に含まれたと考えられる。

### 近代

婦中町の最北東部 東側を神通川が北流し、北は富山市神明町に接する。神通川にほぼ並行して主要地方道富山八尾線が南北方向に走り 集落はこの地方道西に2ヶ所に分かれる。

1ヶ所は鵜坂神社を中心にした地域 もう1ヶ所は旧国道359号線の南である。この地域の南部一帯は水田地帯である。

世帯数と人口の推移

明治17年	14件	73人
昭和26年	20軒	123人
昭和52年	48軒	193人
平成7年	52軒	184人

### 塚原

神通川左岸に隣接し、北は分田 神通川対岸に東塚原(現富山市)

### 近世

元禄11年(1698)神通川の流路変更によって東塚原村の枝村として成立 西塚原村と称した。

しかし、かつての資料(高付帳・県史など)は殆ど東・西合わせて塚原村一村として表示している。

元禄11年354石 天保郷帳では560石余となっている。慶応4年 西塚原の家数12軒・人口69人となっている。寛政2年(1790)の古高48石 定免3.4 新田高15石余

平均免 1.33 小物成は鱒川役 18 匁 鮭川役 2 匁 舟役 (高物成品々手鏡)  
 神明社があったが大正 9 年鵜板神社に合祀された。  
 慶応 4 年家数 12 (すべて高持) 人口 69 人

島黒瀬 神通川対岸の黒瀬村 (現富山市) の枝村、はじめて黒瀬村の人々が当地をひらいた頃は川の島地だったからかく命名した。慶応 4 年の家数 3 (うち頑振 2) 人口 17 (うち頑振 7)  
 神明社があった。

## 近代

婦中町の最東部 東側に神通川が流れる。神通川に並行して主要地方道富山八尾線が南北に走り、中ほどを北陸自動車道が立体交差して、ほぼ東西に走る。住宅は地内全体に散居しているが、周囲は水田地帯であり カドミウム汚染田がかなり多い。南西部には富山県中央植物園がある。南部に婦中町福祉センターをはじめ特別養護老人ホーム 喜寿苑がある。

喜寿苑内には町の介護支援センターおよびデイサービスセンターが併設されている。

世帯数と人口の推移

昭和 26 年	25 軒	145 人
昭和 52 年	24 軒	109 人
平成 7 年	72 軒	155 人

## 羽根新

神通川中流左岸と井田川下流右岸の中間地点に位置して、北東は羽根村 (現富山市) 南西は田島である。羽根村の枝村である。

## 近世

新川郡に属していた、万治 3 年 (1660) 以降富山藩領 正保郷帳では新田高 122 石 田方 5 町 2 反余 畑方 2 町 9 反 明暦 2 年 (1656) の村御印留では草高 127 石 免 4 ツ 小物成は鮎川役 1 匁 享保 6 年 (1721) の高 114 石 寛政 2 年の古高 81 石余 定免 3 ツ 6 歩 3 厘 新田高 7 石 8 斗余 平均免 9 歩 1 厘余 定小物成銀 1 匁 9 歩 文政 8 年 (1825) には奥田組に属した。幕末には古高 93 石余 免 3 ツ 7 歩 畑作古高 14 石余 免 1 ツ 9 歩 小物成は鮎川役 1 匁

柳差役 4 歩 他の柳差役 5 分 慶応 4 年 (1867) 宮川組に属し、家数 13 (うち頑振 6) 人数 43 (うち頑振 17) である。

天照大神を祭神とする神明社があった。

## 近代

婦中町の東北端 富山市に東接する。東部は旧国道 359 号線がほぼ東西に走り、この沿線に住宅・商店が建ち並んでいる。ここから水田地帯を経て羽根新中央部にも集落が南北に広がっている。

この集落の西側は水田地帯である。

世帯数と人口の推移

昭和 26 年	24 軒	146 人
---------	------	-------



昭和52年	62軒	253人
平成7年	73軒	249人

## 田島

神通川中流左岸と井田川中流右岸の中間地点に位置する。北東は羽根新 西に東本郷が接する。かつては神通川・井田川・御門川の三川に囲まれて島のようにであったが、殆ど耕作され田になったので、かく命名されたと伝える。

## 近世

天正11年(1582)8月20日の知行方目録には『田嶋』とあり、615俵が佐々定能に与えられている。慶長9年(1604)当村の久三郎に対して轡田村などの野を開くことを許可されている。同年以降鮭役30尺が定められている。正保郷帳では上田島村・分田村を含んで高367右余 田方6町8反・畑方7町6反余 新田高236石余 享保6年(1721)の高589石余 寛政2年(1790)に古高429石 定免4ツ2歩3厘 新田高73右余 平均免1ツ3歩9厘 銀納畑1333歩 代銀15匁9厘余があり、小物成はさ鱒川役10匁1分 惣川役68匁7分3厘 舟役15匁 なお水損によると考えられる永引が寛文3年(1663)から元文3年(1738)まで6回にわたって233石余ある 文政8年(1825)には奥田組に属した。幕末には古高448石余 免4ツ3歩 畑作古高81石余 免2ツ6歩 他の畑作古高2石3斗余 免1ツ8歩 銀納畑4匁8分2厘 小物成は鮭川役68匁7分3厘 鱒川役は寛政2年と同じ。

慶応4年(1868)宮川組に属し、家数34軒(頭振8)人数148人(うち頭振25)である。

集落東方の浄土真宗本願寺派雲龍山覚法寺(かくほうじ)は明応5年(1496)『越中寺』として開基され、寛政9年現在名に改称したと伝える。誉田別大神を祭神とする八幡神社があった。

## 近代

婦中町の北東部にあたる。旧国道359号線が東西方向にはしる。国道わきに、日露戦争出征兵士の碑が建っている。その地点から県道田島二俣線が北西方向に延びる。住宅は国道および県道沿いに建ち並んでいる。この地区の南半分に集中していたが、次第に地区全体に広がりつつある。

西側を北陸自動車道が走り、富山県中央自動車学校のある付近で旧国道と立体交差している。

この地区北半分は水田地帯であるが、イノベーションパークの誘致を始め、住宅団地が急増している。

### 世帯数と人口の推移

明治17年	50軒	159人
昭和26年	58軒	311人
昭和52年	119軒	511人
平成7年	245軒	904人

## 上田島

神通川中流左岸と井田川中流右岸の中間地点に位置して、北は田島村、東は分田村。田島の枝村で親村の上流に位置したための村名。正保郷帳(1645)では田島村に含まれている。

## 近世

元禄郷帳(1688~1704)では高58石 享保6年(1721)の高69石 寛政2年(1790)の古高34石余・定免3ツ8歩5厘 銀納畑250歩 代銀7匁5分があり、小物成は鮎川役6匁3厘 なお水損と考えられる永引が寛文7年(1667)から元文3年(1738)までに5回にわたって計23石余ある 文政8年(1825)には奥田組に属した。幕末には古高40石余 免3ツ9歩 畑作古高1右1斗余 免1ツ4歩

慶応4年(1868)宮川組に属していた。家数3(うち頭振2)人数10(うち頭振5)である。

## 近代

婦中町の北東部 北陸自動車道を境にして、田島に北接する。旧国道359号線が走る、南部は住宅地。北部は水田地帯であったが、次第に宅地化されてきている。田島川が中央部を南北に流れる。旧国道沿いに鵜板農協(JA) 南端に町立鵜坂小学校がある、西部に町立鵜坂保育園が新設された。

世帯数と人口の推移

明治17年	3軒	16人
昭和26年	23軒	131人
昭和52年	67軒	239人
平成7年	93軒	332人

## 東本郷

神通川中流左岸と井田川中流右岸の間に位置し、すぐ西側を神通川の分流御門川が流れる。北は西本郷 東は田島に接する。西本郷の枝村である。

## 近世

新川郡に属し、万治3年(1660)以降富山藩領。元和元年(1615)の検地では先高181石余 うち川崩れ分9石余を引いて当高172石 免3ツ2歩 正保郷帳では当村は西本郷村に含まれている。明暦2年(1656)の村御印留では草高179石 免3ツ8歩 小物成は野役13匁 鮎川役43匁 鱒川役4匁 鮎川役5匁 獵船楫役10匁 享保6年(1721)高170石 寛政2年(1790)の古高157石 定免4ツ3歩 新田高6石8斗余 免3ツ 銀納畑550歩 代銀3匁8分5厘 小物成は鮎川役21匁5分となっている。

水損によると考えられる永引が寛文10年(1670)から元文4年(1739)までに2回にわたって計48石ある。灌漑は、かつて徳兵衛が中心になって開通したと伝える本郷用水を使用。

天正12年(1584)の洪水で神通川からの取り入れ口が流失したので、改築して現在まで利用している。

慶応4年 為成組に属し家数17(うち頭振10)人数79(うち頭振44)

建御名方命を祭神とする諏訪神社があった。

## 近代

婦中町の北東部 南北に細長い地域。東本郷の中程を、県道田島二俣線と北陸自動車道が並んでほぼ東西に走り、西接する西本郷との境界付近でJR高山本線と交差する。町道西本郷御門線がほぼ南北に走り、住宅はこの道に沿って南部地帯と北部地帯にそれぞれ集落を作る。集落の周囲は水田地帯である。南端を国道359号線が東西に走る。中心部に富山県農業機械センターがある。

世帯数と人口の推移

昭和26年	23軒	135人
昭和52年	20軒	97人
平成7年	23軒	125人

## 西本郷

井田川中流右岸に接し、すぐ南側を御門川が流れている。北は井田川を挟んで金屋(富山市)、南は東本郷。もとは単に『本江(ほんごう)』と称していた。東本江村の分立とともに西本江村になる。地名の由来は太田本郷の郷長がいたためという。

## 近世

万治3年(1660)以降富山藩領 元和5年(1619)西本郷村の「古川筋乃所」の新開が命ぜられた。正保郷帳では高337石余 田方20町2反余 畑方2町3反余 新田高296石余 明暦2年(1656)の年貢割り付け帳(岡崎家文書)では草高655石 免3ツ6歩 小物成は野役13匁 鮭川役43匁 鱒川役4匁 鮎川役2匁 享保6年(1721)の高874石 寛政2年(1790)の古高802石余 定免4ツ7歩 新田高12石 平均免1ツ3歩5厘 井田川の水損によると考えられる永引が寛文11年(1671)から元文3年(1738)まで11回にわたって計141石余ある。

文政8年(1825)には西本江組に属していた。慶応4年(1868)為成組に属し、家数22(うち頭振21)人数136(うち頭振123) 建御名方命を祭神とする諏訪神社があった。井田川・御門川に隣接し洪水を受けることが多かったが、水利がよく肥沃であるため開拓の歴史が古いことが、当地に伝わる『島の徳兵衛伝説』からも伺える。

## 近代

婦中町の北東部 井田川がこの地区の、西端から北端にかけてながれる。南端は北陸自動車道が走り、東は深田排水が境界になっている。深田排水に沿ってJR高山本線が水田地帯をはしる。直ぐ横にイノベーションパークが広がる。全域水田地帯だったが最近急速に宅地化が進んでいる。

世帯数と人口の推移

昭和26年	23軒	145人
昭和52年	45軒	203人
平成7年	118軒	406人

## 宮ヶ島

神通川中流左岸と井田川中流右岸の中間地点に位置し、北は田島 西に下板倉（現下坂倉）に接する。元和8年（1622）の前田利光印判状（岡崎家文書）に村名がみえる。

## 近世

正保郷帳では高260石余 田方12町9反余 畑方4町4反 享保6年（1721）の高268石 寛政2年（1790）の古高268石余 定免3ツ7歩 新田高13石余 平均免1ツ7歩1厘余 銀納畑1016歩 代銀15匁2歩 小物成銀5匁 水損によると考えられる永引が享保13年から宝暦8年（1758）まで2回にわたって計5石4斗余ある。文政8年（1852）には西本江組に属した。幕末には古高268石余 免3ツ8歩 畑作古高19石余 免2ツ4歩 小物成鮎川役5匁のみ 慶応4年（1868）為成組に属した。家数10（うち頭振3）人数30（うち頭振4）である。現八尾町（当時室牧村）の宮ヶ島と混同しやすいので明治15年の郵便条例実施のとき下宮ヶ島村と改称されたが、その後元に戻った。豊玉姫命を祭神とする龍王神社があった。

## 近代

婦中町の北東部 東本郷に北と西の境に接する。東に接する下轡田との境は住宅地で複雑に入り組んでいる。南部を国道359号線がほぼ東西に走っている。住宅は国道南部に密集しており、この東部に宮ヶ島団地がある。国道以北は住宅が散居しているが、まだかなり水田が広がっている。

世帯数と人口の推移

明治17年	13軒	48人	
昭和26年	19軒	54人	
昭和52年	101軒	338人	（団地を含む）
平成7年	120軒	321人	（団地を含む）

## 下板倉（下坂倉）

神通川中流左岸と井田川中流右岸の中間地点に位置し、すぐ西側を御門川が流れる。東は下轡田 南が増田、轡田村の枝村であるが、最初の開拓者が板倉村の者で、板倉村の下流に位置していたので、かく命名されたという。

## 近世

新川郡に属していた。元和8年（1622）の前田利光印判状（岡崎家文書）に『板倉村』の名がみえるが、内容からみて当村をさしていると思われる。明暦2年（1656）の板倉村年貢割り付け状（同文書）も当村のものと思われ、草高86石 免3ツ2歩 小物成は野役2匁 獵船楳役5匁 鱒役1匁 鮎役1匁 元禄郷帳では高159石 享保6年（1721）の高57石余

寛政2年（1790）の古高57石余・定免3ツ4歩 新田高22石余 平均免6歩7厘余 小物成は野役2匁 鱒役1匁 鮎役3匁 鮎役1匁

水損によると考えられる永引が元禄9年（1696）と元文3年（1738）の2回にわたって計10石7斗余ある。文政8年（1825）には奥田組に属した。幕末には古高65石余 免2ツ7歩 灌漑は本郷用水を利用。



慶応4年(1868)には宮川組に属していたと思われるが、郡方人別書上帳に村名がない。

## 近代

婦中町の北東部 旧国道359号線沿いの水田地帯にある。国道が東西に走り、その南側に新興住宅地がある。住宅地南端には、県雇用促進住宅ができています。住宅地のなかには駐車場・商店も多い。西側は本郷用水で速星に接している。国道沿い東隣は宮ヶ島である。地区の南部一帯は水田地帯である。

### 世帯数と人口の推移

昭和26年		
昭和52年	107軒	346人
平成7年	40軒	141人

# 越の大社 鵜坂神社

## 沿革の概要

第10代崇神天皇の御代 北陸道將軍大彦命の勸請によって、白雉年間(650~654)堂宇を再建されたのが、当社の始めと、考えてよいであろう。

昔から年に72度の神事を厳修してきたといわれる。続日本記とか、三代実録によると仁明天皇の承和13年9月(845)従5位(土地8町歩賜る)に進み、清和天皇の貞観年中(859~879)数度神階を進められ、ついに縦3位(土地34町歩賜る)に達した。緒神記によると醍醐天皇の寛平9年12月(897)正3位に進み、以来 歴代ごとに神階が昇進して後鳥羽天皇の元暦2年3月(1185)に正1位に達したと記されている。

朝野群載には 白河天皇の承暦4年(1080) 堀川天皇の康和5年(1103)に御上奏により勅使を当社に遣わされ、中祓を科したことが記されている。歴朝の崇敬極めて厚く、宏壯を極めた。

聖武天皇の天平13年(741) 諸国に納経造寺の詔が出されて以来、仏教が普及してくると、紳仏混こうの風潮が生まれてきたので、名神大社は、淨穢よけとして別当寺、社僧を配するようになった。当社も鵜坂寺を置き社僧をぞくさせ社殿堂塔は豪壯を極めた。

しかし 治承3年(1179)源義仲の兵火にかかり焼亡したが 源頼朝が再建し、鵜坂寺を始め12ヶ村を社領としたので やや旧觀に復したが 天正4年(1156)上杉謙信の乱入によって放火され また神通川の転流などの水害にあい 坊舎などが離散し、往時の盛觀をみることができなくなった。

明治6年8月(1873)社格令が制定されると、昔からの神徳の高さから 新川県から県社に列せられた。しかし当時の氏子は18戸に過ぎなかった。大正4年11月9日(1915)新鵜坂村各集落の19社が合しされ、その後昭和46年(1971)に拝殿 昭和60年(1980)に境内玉垣、平成に社務所を造営 現在に至っている。

## 鵜坂山鵜坂寺(とうはんじ)

神徳天皇の御代(764~770)僧行基が勅を奉じて、鵜坂明神の別当寺として24院及び7堂伽藍を建立したとつたえる。真言宗であった。惣号を鵜坂山(とうはんざん)或いは高柳山(こうりゅうざん)鵜坂寺と称した。

しかし越後の上杉謙信が越中に乱入(永禄6年1563)の際、悉く兵火にかかり、数坊の社僧共退散して、宮守一坊だけ残り、どうにか明治のはじめまでその法灯を守ってきた。

しかるに明治2年3月になって、廢寺となったのである。

この鵜坂寺の領地は宮地の北側にかなり広大なものであったらしいが詳細はわからない。

またこの寺の墓地が宮の西100メートル位のところにあり、石塔・石仏が散乱していたのを、昭和38年ごろ整理した。年号銘を刻した石塔には、あまり古い物が見当たらないが、石仏や五輪塔や一石五輪塔には室町時代までさかのぼるものがあるから、中世からの一山の墓地であったことがしのばれる。またさすがに鵜坂寺の墓地だけあって墓標の無縫塔など堂々としている。

この鵜坂寺のことが見えるのは富山市八町吉祥院の過去帳や、富山市梅沢町来迎寺に伝える毘沙門天の銘文によって知られる程度である。

過去帳などから鵜坂寺1世秀尊大僧都から第75世觀実大僧都まで連綿と継承されてきたことを示している。

## 鵜坂寺の末寺

鵜坂寺は滅んでしまったが、その末寺であったと伝える寺がいくつかある。  
 射水郡三十三ヶ村徳常院 射水郡小杉町大江西高木の光専寺  
 富山市布瀬町の順正寺 富山市萩原の栄正寺 などがある。

森 森 森  
 麓 麓 麓  
 たる たる たる  
 靈 靈 靈  
 域 域 域  
 瑞 瑞 瑞  
 巖 巖 巖  
 の の の  
 中 中 中  
 祭 祭 祭  
 祀 祀 祀  
 千 千 千  
 秋 秋 秋  
 神 神 神  
 徳 徳 徳  
 崇 崇 崇  
 し し し  
 知 知 知  
 り り り  
 是 是 是  
 れ れ れ  
 郡 郡 郡  
 村 村 村  
 形 形 形  
 祥 祥 祥  
 の の の  
 地 地 地  
 鞠 鞠 鞠  
 躬 躬 躬  
 古 古 古  
 を を を  
 慕 慕 慕  
 う う う  
 て て て  
 微 微 微  
 衷 衷 衷  
 を を を  
 捧 捧 捧  
 ぐ ぐ ぐ

富城書

森麓たる靈域瑞巖の中、祭祀千秋神徳崇し、  
 知り是れ郡村形祥の地、鞠躬古を慕うて微衷を捧ぐ  
 富城 重杉俊雄

## 鵜坂村年表（明治以降）

明治 6年 (1873年)	鵜坂神社県社に列せられる 分田（野上惣平宅）に分田小学校開設 下轡田（浄福寺）に轡田小学校開設（上新川郡の4ヶ村から通学）
7年	新川県布告により鵜坂・分田・田島・上田島・宮ヶ島が第12大区3小区に、 上・下轡田、西・東本郷、羽根新が第2大区小10区となる
8年	羽根新の前野六次郎宅と上轡田の田尻清四郎宅の轡田小学校が近知小学校に、 野上宅の分田小学校が博隆小学校と改称
9年	石川県令により鵜坂など6ヶ村が第3大区小5区に、 この他は第2大区小10区となる
11年	郡役所が藤井町に出来た
17年	戸長役場が中名村に出来た この時まだ婦負郡と上新川郡に分かれていたので婦負郡に属する 村の世帯数103、人口414
20年	博隆小学校が簡易科分田小学校に、近知小学校が簡易科下轡田小学校に改称
22年	市町村令により初めて、新鵜坂村が誕生 この時の世帯数284、人口1544 二小学校も合併して鵜坂小学校となる（下轡田字桑原に設置） 初代村長 竹内弥一郎就任、助役 高柳万太郎 収入役兼務
23年	神通川・井田川出水、鵜坂村の田畑流失
25年	鵜坂尋常小学校と称するようになる 有沢橋の渡橋式行われる 2代村長 谷野四八就任 十二ヶ用水の閘門改築
26年	分田に県農事試験場の分場ができた 技師 本波慶太郎着任 鵜坂小学校（下轡田）暴風雨のため倒壊、上田島に移転新築
27年	鵜坂村役場 上田島で竣工 竹内弥一郎宅で、小学校・役場の盛大な建築落成式を挙行 郡長外85名出席 この頃から北海道移民が盛んになる
28年	神通川氾濫 本郷用水取り入れ口付近決壊
30年	3代村長に竹内弥一郎再任
31年	この時の戸数382
32年	鵜坂村選出として井上清治 郡会議員に当選
33年	小学校増築3学級となる 児童数107名
35年	神通川左岸水害予防組合結成 組合長鵜坂村長
36年	この時戸数291 人口1,713 岡崎佐次郎郡会議員に当選
41年	岡崎佐次郎衆議院議員に当選



(1908年)	この頃村内22社の合併案が打ち出され村民大会を開いたが結論出ず 小学校4学級となる
42年	4代村長 高柳留次郎就任 鵜坂青年会結成 会員185名
43年	神通川氾濫 有沢橋流失
44年	小学校現在地(現在のグラウンド位置)に新築 (敷地745坪 建物144坪 2階建て 工費6,898円) 野村嘉六 県会議員に当選 谷野亮七 郡会議員に当選
45年 (1912年)	この時の戸数263 人口1,673 野村嘉六 衆議院議員に当選 鵜坂村信用購買販売組合設立 組合長 高柳留次郎
大正 3年	8月12日大洪水 井田川49ヶ所決壊 床上浸水150戸 流失3戸 浸水田反別300町歩
4年	麦作奨励(大麦一反に5石~6石とれた) 小学校に高等科でき、鵜坂尋常小学校と称する 下轡田八幡社を残し、村内22社全部を鵜坂別社として合祀する事に決定 宮崎松太郎 郡会議員に当選 野付嘉六 衆議院議員に当選
5年	この時の戸数262 人口 1,564 小学校に雨天体操場出来る
6年	野付嘉六衆議院議員に3度目の当選
7年	県下に米騒動起こる 鵜坂地区平穏
8年	岡崎佐次郎 郡教育会長に選ばれる 宮崎治衛門 郡会議員に選ばれる 鵜坂村婦女会結成
9年	第1回国勢調査この時 戸数262 人口 1,564 農協の籾貯蔵庫建設 鵜坂別社維持困難となり県社鵜坂神社に合祀となる
10年 (1921年)	従来の大字を廃して全村区制を敷く 1区(上・下轡田 下板倉) 2区(塚原 分田 鵜坂) 3区(羽根新 田島 上田島) 4区(東・西本郷 宮ヶ島)
11年	富山市(大手前通り)で朝市始まる 本村から野菜類多く出品 5代村長 本波慶太郎就任

12年	農業組合を保証責任制に改める
13年	野付嘉六 衆議院議員に5度目の当選
14年	この時の戸数 259 人口 1,547
15年 (1926年)	小学校に青年訓練所が併設される (学校の男子職員及び在郷軍人中から4名指導員委嘱)
昭和 2年	速星に大日本人造肥料会社(現日産化学)操業開始
	飛越線(現高山線)開通 西本郷地内を通過
	鵜坂神社境内拡張(神通川堤防改修の際の土砂を利用)
3年	鵜坂神社本殿(9,375円)及び拝殿(29,000円)が完成 盛大な遷宮慶賀式が行われた
	婦負郡青年競技会(於ける八尾)開催 本村優勝
	鵜坂消防組設立 組長 岡付市郎 鉄骨望楼台出来る
4年	野村嘉六 6度目の当選 文部政務次官に任ぜらる
5年	戸数262 人口 1,589
	中田医院分田で開業 4代農協組合長 岡付市郎就任
7年	野村嘉六 7度目の当選
	神通川氾濫 耕地改廃 用水堰流失等被害甚大
8年	7代村長 竹内拙堂就任
9年	野付嘉六 富山市長に任ぜられる (無休で奉仕 私立高女新設 日満博準備)
	農協籾貯蔵庫建設
10年	戸数270 人口1,851
11年	8代付長 岡村市郎就任
	野村嘉六 衆議院議員当選(8度目)
13年	5代農協組合長 竹内拙堂就任
15年	戸数266 人口 1,670
16年	小学校が国民学校と改称
	農協農業倉庫建設 6代農協組合長 岡村市郎就任
17年 (1942年)	9代村長 竹内拙堂就任
	6月1日付けで速星村と合併「婦中町」となる
	竹内拙堂 新婦中町の初代町長に就任
18年	合併により小学校は町立に 両農協とも婦中町農業会と改称

19年	7代農協組合長 竹内拙堂就任
	集団疎開児童（東京）田島覚法寺にくる
20年	終戦 本村の戦死者（昭和6～20）陸軍49 海軍7
21年	河上喜一 町長臨時代理を勤める
22年	農地改革すすめられ、第一回農地委員選挙行われる 初代委員長 島田清一郎
	町議会議員選挙行われる 河上喜一 岡付市郎 谷野利信 泉 保則 佐々木きよ 松島佐市 青山源吾 寺島清一 当選
	速星中学校創立
	戸数( ) 人口 1,851
23年	食料調査委員会発足（野村柔治ほか）
	井田川右岸堤防決壊 洪水 東・西本郷 田鳥 羽根新 分田 302平方キ口にわたり浸水921世帯濁流中に孤立
	鵜坂農業会を解散 鵜坂農業協同組合設立 組合長 野村柔治就任
25年	戸数( ) 人口 1,975
26年	小学校講堂竣工（282坪 554万円）校歌制定
	消防第2分団屯所竣工
	町議選 岡村次男 宮田直次郎 藤井佐市 河上喜一 青山源吾 角間甚栄 当選 河上喜一議長に就任
27年	農協事務所及び店舗火災で焼失 農協組合長 河上次郎吉就任
30年 (1955年)	戸数368 人口2,007
	婦中町合併後初の町議選（定員26） 河上喜一 竹内重信 青山源吾 当選 西本郷に水防倉庫建つ 鵜坂保育園を鵜坂小学校から分離して独立舎とする
	神通川左岸大排水工事の起工式挙行
	鵜坂小学校改築(工費2600万円) (小学校の廃材を利用して速星に産業会館建つ)
	鵜坂保育園新築落成
31年	鵜坂神社奉賛会 大伴家持の歌碑を建立
	鵜坂長寿会結成 会長に岡付市郎 会員 男26 女34
32年	小学校の体育館落成
	県道富山一礪波線（国道359号線）舗装竣工
	鵜坂神社前町道拡幅
	野村嘉六の胸像建つ
33年	野村嘉六の胸像建つ

	消防第2分団（鵜坂）に新鋭消防車配備
34年	婦中町3度目の大合併
	町議選 野上宗文 青山源吾 宮崎重作ら当選
35年	西本郷で三葉電子工業操業開始
	富山～朝日～田島地鉄バス開通
	農協，県中央会から表彰を受ける
	戸数390 人口 2,175
	宮ヶ島内に町営住宅20戸建つ
36年	農協，産業組合として設立50周年を迎え記念式典
	警察官駐在所を廃止 連絡所を置く
	町営住宅更に20戸建つ
37年	鵜坂公民館新築落成 鵜坂商盛会発足 初代会長 中田周一郎
38年	町議選 青山源吾 島坂政夫 竹内正夫ら当選
	農協組合長 角間甚栄就任
	田島に富山自動車技術研究所（現富山県中央自動車学校）開設
39年	小学校にプール新設
	西本郷用水竣工（641m 435万円）
	有沢橋 永久橋工事完成
	富山県中央自動車学校（田島）操業開始
40年 (1965年)	戸数490戸 人口 2,432
	婦中町農協から鵜坂農協分離独立発足
	役場支所出張所に公民館を当てる
	富山～礪波線（速星～鵜坂間）駐車禁止区域となる
42年	町議選 島田伊作 青山源吾 竹内弘則 竹内正夫ら当選
	農協事務所新築落成（鉄筋2階建て 800万円）
43年	イタイイタイ病「公害病」と認定
	北陸自動車道の路線決定 西本郷 田島 上田島 分田 塚原 通過
44年	農免道路（塚原～砂子田間）完成
	鵜坂保育園増改築竣工 木造平屋建て 1,300万円
45年	戸数611 人口 2,750
	祢比川橋（田島～二俣線）完成

	町の市街化区域調整区域等発表
46年	町議選 島田伊作 青山源吾 竹内正夫 竹内弘則 ら当選
	鵜坂神社社殿コンクリートに改築完成
	下轡田地内の農道完成
47年	カドミュウム汚染土壌調査始まる
	田島地内に希望ヶ丘団地37区画造成
	下轡田地内に双葉台団地37区画造成
	下板倉地内に雇用促進事業団による住宅建設
48年	鵜坂スポーツ少年団及び少年教室結成
	小学校創立百周年記念行事挙行
	「花と緑の銀行オープン」
49年	カド汚染田復元実験が上轡田地内で始まる
	神通川流域の六地区改良区が合併 婦中町土地改良区となる
	町議選 中島源太郎 竹内弘則 竹内正夫ら当選
	下轡田地内に自由ヶ丘団地63区画造成
	3月鵜坂公民館焼失
	北陸自動車道富山・小杉間完成開通式
	戸数 804 人口 3,350
51年	鵜坂公民館新築落成 鉄筋二階建て 3,955万円
	カド汚染田復元に関し「土地利用計画」が示された
52年	カド汚染地域指定912haとなる
	富山県緑化センター上轡田地内でオープン
	三笠宮殿下緑化センターに御成り
	婦中町緑の少年団結成
53年	西本郷地内に西本郷団地36区画造成
	分田地内に鵜坂第一団地81区画造成
54年	下轡田地内にむらさき幼稚園開園
	小学校にオープン教室竣工
	町議選 高島和雄 寺島 実 竹内正夫 ら当選
55年	鵜坂公民館で初の地区「文化祭」を開く
	下轡田地内で7区画造成



	「河上善行賞」制定される
	戸数 990 人口 3,960
56年	小学校のプール・アルミ合金で改装 3,000万円
	分田地内に鶴坂第二団地 50区画造成
	町道 下轡田・西本郷線完成 田島2号線 完成
57年	小学校の相撲場開きに、佐渡ヶ嶽部屋一門来校
	獅子舞のルーツを訪ねて北海道朝日町から上轡田へ
	下轡田地内に団地 7区画造成
58年	塚原地内に河上喜一、建設地を提供し婦中町社会福祉センター設立される
	町議選 竹内正夫 寺島 実 高島和雄 ら当選
59年	田島地内に団地 5区画造成
60年 (1985年)	上轡田地内に神通川緑地公園オープン
	下轡田地内に団地 5区画造成
	婦中バイパス塚原一連星線開通
	河上喜一婦中町名誉町民第1号に推挙
	世帯数 1,155 人口 4,533
61年	田島地内に「老人と子供の広場」オープン
62年	竹内弘則県会議員に当選
	婦中大橋 開通
	町道 下轡田 - 西本郷線が開通共用開始
	田島地内にニューシティ南台団地 68区画造成
	町議選 竹内文彦 竹内正夫 寺島 実 ら当選
63年	宮ヶ島公営住宅第一号棟 (鉄筋3階建て3DK12世帯)完成
	下轡田地内につつじヶ丘ニュータウン 14区画造成
平成 元年 (1989年)	下轡田地内に平成団地 77区画造成
	分田地内にみどり住宅 88区画造成
	上轡田・塚原地内の県中央植物園の用地交渉まとまる
2年	鶴坂小学校校舎・体育館全面改築 竣工落成
	田島・西本郷地内に富山イノベーションパークの造成起工式
	世帯数 1,266 人口 4,816
3年	町議選 竹内正夫 竹内文彦 寺島 実 ら当選
	竹内弘則 県会議員に当選
	富山県中央植物園の起工式 田島地内に万葉台 66区画造成

4年	富山イノベーションパーク竣工
	田島地内に希望ヶ丘ニュータウン258区画造成
5年	塚原に特別養護老人ホーム「喜寿苑」完成オープン
	下轡田公民館完成
	県中央植物園一部オープン
6年	田島に6区画住宅造成　宮ヶ島に8区画住宅造成
7年	西本郷に雇用促進住宅竣工
	町議選　竹内正夫　竹内文彦　青山　稔　有沢　守　ら当選
	田島に11区画　下轡田に7区画住宅造成
	世帯数　851　人口　6,435
	竹内弘則　県会議員に当選
8年	鵜坂保育園　新築竣工